

令和7年度 天竜川上流

水生生物
調査

調査
結果



国土交通省 中部地方整備局
天竜川上流河川事務所

調査について

調査で何がわかるの？

川の中で暮らす水生生物（水生昆虫や貝類など）は、水質（水のきれいさ）や流れの速さなど、わずかな環境の違いによってすむ種類や数が変わります。

このことから、ある水質を特に好む生きもの（指標生物）を調べることで、その場所の水質を判定できます。

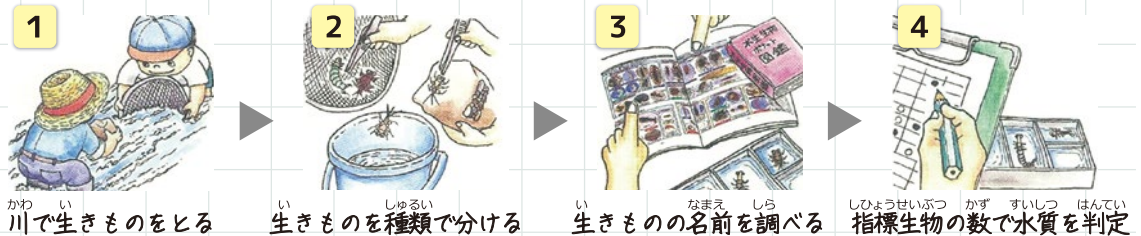
水質判定できる生物（指標生物）の例

きれいな水  カワゲラ類	ややきれいな水  コオニヤンマ
きたない水  シマイシビル	とてもきたない水  サカマキガイ

どうやって調査をするの？

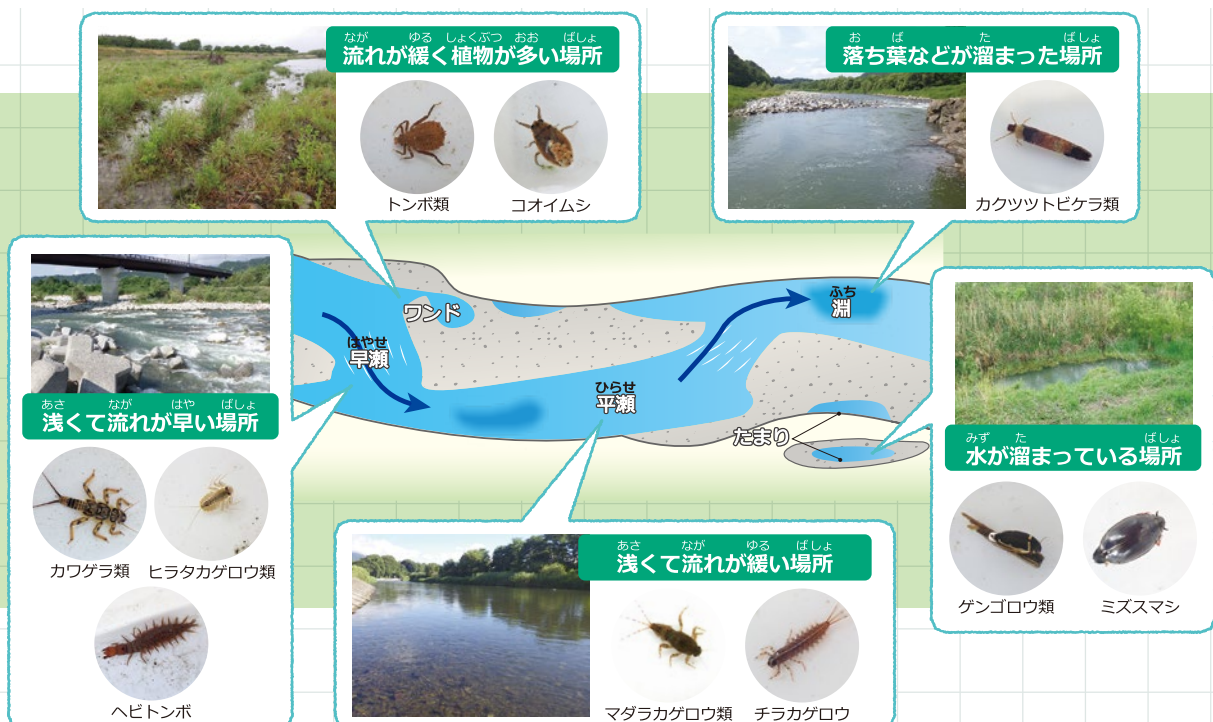
調査では、水生生物をつかまえて、「①どんな種類の生きものが見つかったか」、「②どの種類の生きものが多かったか」を調べ、その川の水質を4段階（きれい・ややきれい・きたない・とてもきたない）で判定します。

調査の方法



場所ごとにいろいろな水生生物がすんでいる

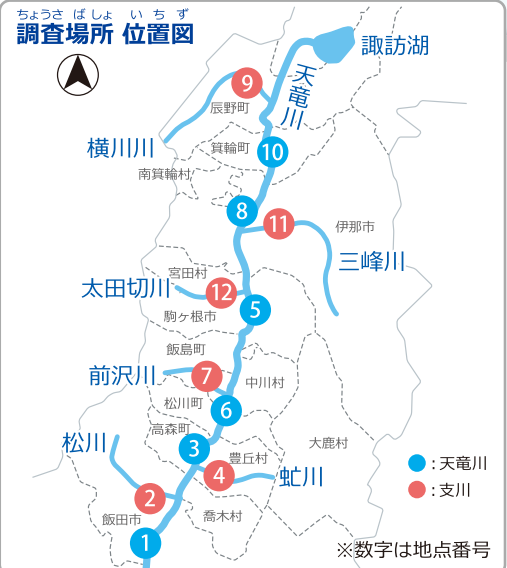
水生生物調査では、主に「流れが速くて川底が石」の場所で生きものをとりましたが、川には、平瀬や早瀬、ワンドなど様々な環境があり、その場所にあった姿・形や生活スタイルをもった水生生物がすんでいます。水生生物の種類の多さも、川の環境が良いかどうかを知る目安になりますので、いろんな環境で生きものを探してみましょう。



令和7年度 水生生物調査参加の皆さん

今年度の調査も、大変多くの方にお申込みいただき、計10地点（事務局のみで実施した地点を除く）401人の方にご参加いただきました。

昨年に引き続きとても暑い中での開催となり、一部の地点では熱中症予防として、時間を短縮したプログラムとさせていただきます。また、前日までに降った雨によって河川が増水してしまい、やむなく中止となった地点もありましたが、多くの方のご協力のもと、調査を実施することができました。ありがとうございました！



1 天龍橋 (天竜川) 33人



7月29日(火) 飯田市龍江

2 上溝橋 (松川) 36人



7月29日(火) 飯田市上郷別府

3 明神橋 (天竜川) 47人



7月31日(木) 高森町下市田

4 新虻川橋 (虻川) 30人



7月31日(木) 豊丘村神稲

5 天竜大橋 (天竜川) 49人



8月1日(金) 駒ヶ根市中沢

6 天の中川橋(天竜川) 51人



8月5日(火) 中川村葛島

7 新前沢橋 (前沢川) 32人



8月5日(火) 中川村片桐

8 平成大橋 (天竜川) 42人



8月6日(水) 伊那市狐島

9 伊那富橋 (横川川)



8月17日(日) 辰野町辰野
※事務局で実施

10 伊那路橋 (天竜川) 37人



8月8日(金) 箕輪町中箕輪

11 竜東橋 (三峰川) 44人



8月17日(日) 伊那市下新田

12 大田原橋 (太田切川)



7月24日(木)
※事務局で実施

今年の水生生物調査結果

調査の結果、すべての地点で **きれいな水** という判定になりました！

調査結果 **天竜川**

水質階級Ⅰ : きれいな水
水質階級Ⅱ : ややきれいな水
水質階級Ⅲ : きたない水
水質階級Ⅳ : とてもきたない水

調査地点名		天龍橋	明神橋	天の中川橋	天竜大橋	平成大橋	伊那路橋
調査場所		飯田市龍江	高森町下市田	中川村葛島	駒ヶ根市中沢	伊那市狐島	箕輪町中箕輪
月日		7月29日	7月31日	8月5日	8月1日	8月6日	8月8日
天気		晴れ	晴れ	くもり	晴れ	晴れ	晴れ
水温(℃)		27℃	25.5℃	24℃	23.5℃	24℃	32℃
生物を採取した場所		左岸	右岸	左岸	左岸	左岸	右岸
生物採取場所の水深(cm)		30cm	40cm	30cm	30cm	30cm	40cm
流れの速さ		ふつう	はやい	ふつう	はやい	ふつう	はやい
川底の感触		ヌメリはあるが不快なし	ヌメリはあるが不快なし	ヌメリはあるが不快なし	ヌメリはあるが不快なし	ヌメリはあるが不快なし	ヌメリはあるが不快なし
水のにごり、におい、その他		透視度65cm においなし	透視度94cm においなし	透視度97cm においなし	透視度94cm においなし	透視度85cm においなし	透視度90cm においあり
ごみの量		ほとんどない	ほとんどない	ほとんどない	ほとんどない	ほとんどない	少しある
魚、水草、鳥、その他の生物		オイカワ アカザ(卵) カワヨシノボリ	オイカワ ウグイ カマツク シマドジョウ アカザ ドンコ カワヨシノボリ カジカガエル(幼生)	オイカワ カワムツ ドジョウ カワヨシノボリ アマガエル カジカガエル(幼生)	カワムツ アブラハヤ モツゴ ドジョウ シマドジョウ アカザ メダカ カワヨシノボリ ツチガエル カジカガエル(幼生)	コイトモロコ モツゴ タモロコ ドジョウ カラドジョウ シマドジョウ カワヨシノボリ カワヨシノボリ トノサマガエル	オイカワ ドジョウ カラドジョウ ナマス ブルーギル ナマチチブ カワヨシノボリ ウキゴリ アマガエル ダルマガエル
水質	指標生物						
きれいな水	水質階級Ⅰ						
	1 カワゲラ類		1 ○		2 ○	10 ○	
	2 ヒラタカゲロウ類	2 ○	13 ○		38 ●	57 ●	46 ●
	3 ナガレトビケラ類	2 ○	5 ○	1 ○		4 ○	7 ○
	4 ヤマトビケラ類						
	5 アミカ類						
	6 ヨコエビ類						
	7 ヘビトンボ	19 ●	22 ●	42 ●	29 ○	3 ○	6 ○
	8 ブユ類		276 ●		240 ●	30 ●	
	9 サワガニ					1 ○	4 ○
	10 ナミウズムシ					11 ○	3 ○
ややきれいな水	水質階級Ⅱ						
	1 コガタシマトビケラ類	14 ●	22 ●	2 ○	12 ○	7 ○	3 ○
	2 ヒラタドロムシ類	2 ○	1 ○	64 ●	12 ○	18 ○	27 ●
	3 ゲンジボタル						
	4 コオニヤンマ				1 ○		1 ○
きたない水	水質階級Ⅲ						
	1 ミスカマキリ					2 ○	
	2 ミスミシ						
	3 タニシ類						2 ○
とてもきたない水	水質階級Ⅳ						
	1 ユスリカ類			7 ○	1 ○		
	2 チョウバエ類						
	3 アメリカザリガニ						
	4 エラミミズ					2 ○	1 ○
水質階級の判定	水質階級						
	1 ○印と●印の個数	3 2 0 0	5 3 0 0	2 2 0 2	4 3 0 2	7 3 1 0	5 3 2 0
	2 ●印の個数	1 1 0 0	2 1 0 0	1 1 0 0	2 0 0 0	2 0 0 0	1 1 0 0
	3 合計(1欄+2欄)	4 3 0 0	7 4 0 0	3 3 0 2	6 3 0 2	9 3 1 0	6 4 2 0
参考	その地点の水質階級	水質階級Ⅰ	水質階級Ⅰ	水質階級Ⅰ	水質階級Ⅰ	水質階級Ⅰ	水質階級Ⅰ
	カゲロウの仲間	キイロカワカゲロウ フタオカゲロウ類 チラカゲロウ シロタニガワカゲロウ	キイロカワカゲロウ モンカゲロウ類 チラカゲロウ シロタニガワカゲロウ	キイロカワカゲロウ コカゲロウ類 チラカゲロウ シロタニガワカゲロウ	キイロカワカゲロウ モンカゲロウ類 トグマダラカゲロウ類 シロタニガワカゲロウ	キイロカワカゲロウ チラカゲロウ シロタニガワカゲロウ	キイロカワカゲロウ チラカゲロウ シロタニガワカゲロウ
	トビケラの仲間	ウルマーシマトビケラ ヒグナガカワトビケラ	ウルマーシマトビケラ ヒグナガカワトビケラ	ウルマーシマトビケラ ヒグナガカワトビケラ ニンギョウトビケラ類	ウルマーシマトビケラ ヒグナガカワトビケラ ニンギョウトビケラ類	ウルマーシマトビケラ ヒグナガカワトビケラ	ウルマーシマトビケラ ヒグナガカワトビケラ
	トンボの仲間	ダビドサナエ類	サナエトンボ類 コヤマトンボ	サナエトンボ類 コヤマトンボ	ハグロトンボ サナエトンボ類 コヤマトンボ	ウスバキトンボ	ハグロトンボ ダビドサナエ類 コヤマトンボ
	その他	ゲンゴロウ ナベブタムシ ナガレアブ類 シナヌマエビ	淡水ミミズ類 シナヌマエビ ガガンボ類	タイワンシジミ シナヌマエビ アメンボ類 ナベブタムシ ケバリマメゲンゴロウ コオナガミズマシ	モノアラガイ シナヌマエビ ナベブタムシ コオナガミズマシ	シナヌマエビ コオイムシ タイコムシ ヒメミスカマキリ ナベブタムシ コオナガミズマシ	ヒメタニシ タイワンシジミ シナヌマエビ テナガエビ コオイムシ ナベブタムシ マツモムシ アブ類 コシメゲンゴロウ モンキマメゲンゴロウ コオナガミズマシ
種類数		16種	19種	21種	23種	23種	29種

○：みつかった指標生物、●：多かった上位2種類の指標生物

ちょう さ けつ か し せん
調査結果 支川



コオニヤンマ



ヤマトビケラ類



トゲマダラカゲロウ類

調査地点名		上溝橋（松川）	新虹川橋（虹川）	新前沢橋（前沢川）	大田原橋（太田切川）	竜東橋（三峰川）	伊那富橋（横川川）
調査場所		飯田市上郷別府	豊丘村神稲	中川村片桐	駒ヶ根市下平	伊那市下新田	辰野町辰野
月日		7月29日	7月31日	8月5日	7月24日	8月17日	8月17日
天気		晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
水温（℃）		27℃	31.5℃	27.2℃	25℃	24℃	24℃
生物を採取した場所		中央	中央	中央	右岸	右岸	右岸
生物採取場所の水深（cm）		30cm	40cm	40cm	40cm	40cm	40cm
流れの速さ		はやい	ふつう	はやい	ふつう	ふつう	ふつう
川底の感触		ヌメリはあるが不快なし	ヌメリはあるが不快なし	ヌメリはあるが不快なし	ヌメリなし	ヌメリはあるが不快なし	ヌメリなし
水のにごり、におい、その他		透視度100cm以上 においなし	透視度100cm以上 においなし	透視度100cm以上 においなし	透視度100cm以上 においなし	透視度75cm においなし	透視度100cm以上 においなし
ごみの量		ほとんどない	ほとんどない	ほとんどない	ほとんどない	ほとんどない	少しある
魚、水草、鳥、その他の生物		スナヤツメ カワムツ アブラハヤ カラドジョウ シマドジョウ カワヨシノボリ	カワムツ アブラハヤ シマドジョウ カワヨシノボリ アマガエル ツチガエル カシカガエル（幼生）	カワムツ アブラハヤ ドジョウ カラドジョウ カシカ カワヨシノボリ	なし	ウグイ シマドジョウ アカザ カワヨシノボリ	カラドジョウ カワヨシノボリ
きれいな水	水質	指標生物					
	水質階級Ⅰ	1 カワゲラ類	12 ●		1 ○	4 ○	2 ○
		2 ヒラタカゲロウ類	1 ○	25 ○	28 ○	35 ○	14 ○
		3 ナガレトビケラ類	2 ○		4 ○	2 ○	5 ○
		4 ヤマトビケラ類	4 ●	2 ○	2 ○		
		5 アミカ類					
		6 ヨコエビ類	1 ○				
		7 ヘビトンボ	2 ○	5 ○	10 ○	4 ○	51 ●
		8 ブユ類		56 ●	107 ●	34 ●	50 ●
		9 サワガニ	3 ○		4 ○		2 ○
		10 ナミウズムシ		10 ○			1 ○
ややきれいな水	水質階級Ⅱ	1 コガタシマトビケラ類	2 ○	10 ○	54 ●	50 ●	26 ○
		2 ヒラタドロムシ類				3 ○	11 ○
		3 ゲンジボタル					1 ○
		4 コオニヤンマ	2 ○	3 ○	2 ○		12 ○
		5 カワニナ類	27 ●	11 ○	34 ○		15 ○
きれいな水	水質階級Ⅲ	1 ミスカマキリ	1 ○				
		2 ミズムシ					
		3 タニシ類					
		4 シマイシビル			1 ○		
とてもきれいな水	水質階級Ⅳ	1 ユスリカ類				1 ○	
		2 チョウバエ類					
		3 アメリカザリガニ					
		4 エラミミズ					
		5 サカマキガイ				1 ○	3 ○
水質階級の判定	水質階級		I II III IV	I II III IV	I II III IV	I II III IV	I II III IV
	1 ○印と●印の個数		5 3 1 0	6 3 0 0	4 3 1 0	6 1 0 0	5 2 0 2
	2 ●印の個数		1 1 0 0	2 0 0 0	1 1 0 0	1 1 0 0	2 0 0 0
	3 合計（1欄+2欄）		6 4 1 0	8 3 0 0	5 4 1 0	7 2 0 0	7 2 0 2
その地点の水質階級		水質階級Ⅰ		水質階級Ⅰ		水質階級Ⅰ	
参考	指標生物以外の生物	カゲロウの仲間	モンカゲロウ類 シロタニガワカゲロウ	モンカゲロウ類	なし	トゲマダラカゲロウ類 コカゲロウ類 シロタニガワカゲロウ	チラカゲロウ シロタニガワカゲロウ
		トビケラの仲間	ウルマーシマトビケラ ヒゲナガカワトビケラ ニンギョウトビケラ類	ウルマーシマトビケラ ニンギョウトビケラ類	ウルマーシマトビケラ ヒゲナガカワトビケラ	ウルマーシマトビケラ コカクツツトビケラ類	ウルマーシマトビケラ ヒゲナガカワトビケラ ニンギョウトビケラ類
		トンボの仲間	ハグロトンボ サナエトンボ類 オニヤンマ コヤマトンボ	サナエトンボ類 ダビドサナエ類 オニヤンマ コヤマトンボ	ダビドサナエ類 コヤマトンボ	nなし	ハグロトンボ
		その他	シナヌマエビ ミスカマキリ キペリマメゲンゴロウ モンキマメゲンゴロウ	シナヌマエビ ナベフタムシ モンキマメゲンゴロウ	シナヌマエビ ミスムシ コオイムシ ガガンボ類	ガガンボ類 ナガレアブ類	コオイムシ アブ類 ゴマダラチビゲンゴロウ モンキマメゲンゴロウ
		種類数	22種	19種	16種	14種	19種

○：みつかった指標生物、●：多かった上位2種類の指標生物

※大田原橋地点、伊那富橋地点は事務局で実施

水生生物からみた天竜川の水質の変化

今年も全地点「きれいな水」判定でした！

長野県内の天竜川では、約40年にわたって水生生物調査を行っています。平成6年頃までは、諏訪湖の水質悪化の影響により、諏訪湖により近い辰野町から伊那市にかけての天竜川の水は、「きたない水」や「ややきれいな水」の判定が多くみられる状態でした。しかし、下水道の整備や排水の規制により、年々「きれいな水」と判定される場所が増え、ここ最近「きれいな水」の記録を継続中です。また、天竜川の支川では、調査が始まった平成13年からほとんど全てきれいな水という判定が続いています。最近の水質改善とともに水生生物による水質判定結果がどのように変わってきたのかを見てみましょう。

天竜川の水質の変化

調査場所 (地点名)	昭和		平成																														令和									
	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7			
箕輪町 (伊那路橋)																																										
伊那市 (平成大橋)																																										
駒ヶ根市 (天竜大橋)※																																										
中川村 (天の中川橋)																																										
高森町 (明神橋)																																										
飯田市 (天龍橋)																																										

※平成13～23年は「大久保橋」、平成24～29年は「駒見大橋」で実施

支川の水質の変化

調査場所 (地点名)	平成																														令和						
	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7												
辰野町 (横川川)																																					
伊那市 (三峰川)																																					
駒ヶ根市 (太田切川)																																					
中川村 (前沢川)																																					
豊丘村 (蛇川)																																					
飯田市 (松川)																																					

水質判定結果の記号

- I.きれいな水
- II.ややきれいな水
- III.きたない水
- IV.とてもきたない水
- 欠測

上流
下流

今年度の調査結果

きれいな水が守られています！

今年の調査の結果、「きれいな水」の指標生物であるヘビトンボが全地点で確認されました。また、ヒラタカゲロウ類やブユ類も本川では6地点中5地点で確認され、カワゲラ類やヤマトビケラ類も複数地点で確認されるなど、全体的に「きれいな水」の指標生物が多い結果となりました。一方で、「きたない水」や「とてもきたない水」の指標生物であるシマイシビルやユスリカ類は1～2地点での確認にとどまりました。きれいな水の指標種が多く確認されている状況から、天竜川のきれいな水が守られていることがわかります。



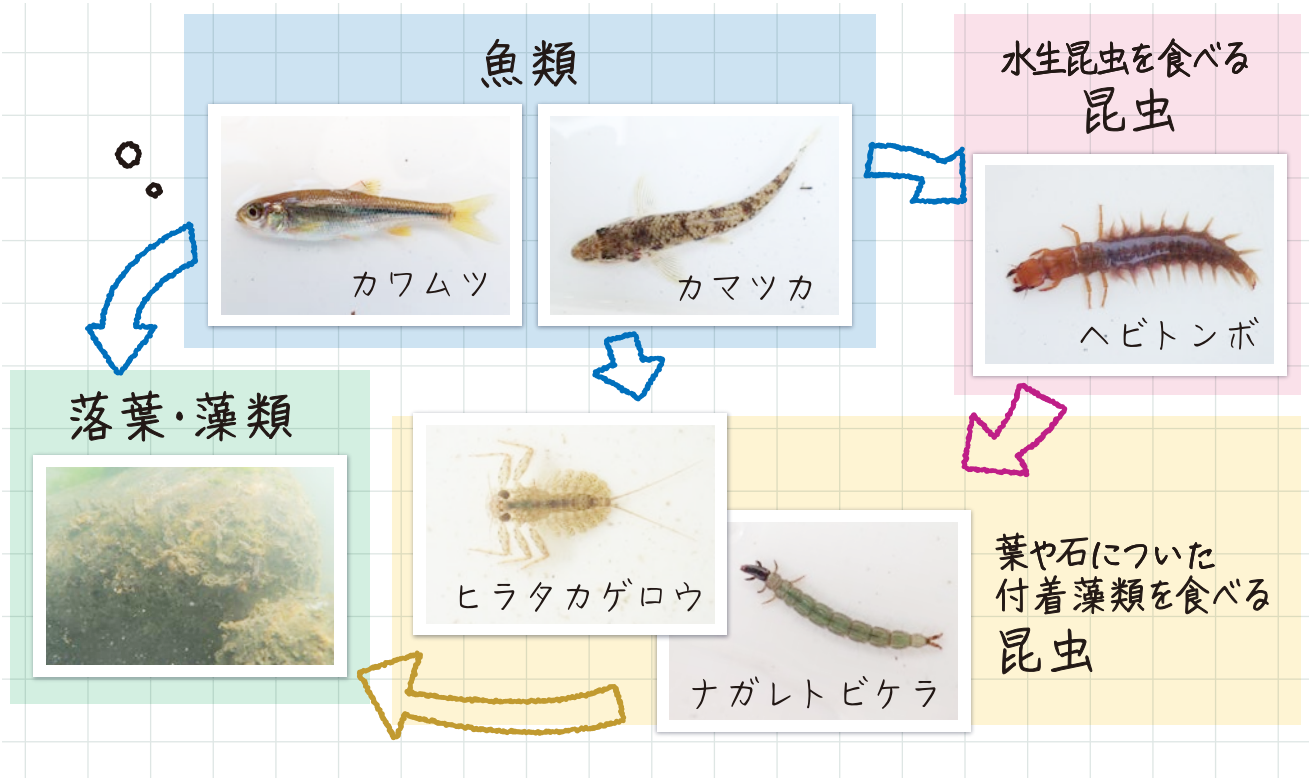
河川内のバランスを保つ水生生物の関係性

食う・食われるの関係で成り立っている？！

川の中には、森や海と同じように「食物連鎖」があります。これは、生き物たちが「食べる・食われる」の関係で鎖のようにつながっている構造のことです。

川には、水草や木から落ちて流れてきた落ち葉、石にはりつく付着藻類などが存在します。これらは、川にすむ生き物たちにとって大切な「食物」や「生息場」の役割を果たしています。

ヒラタカゲロウ類などの付着藻類や葉を餌とする昆虫、そのヒラタカゲロウ類などの水生昆虫を餌とするヘビトンボなどの昆虫、付着藻類やこれらの水生昆虫を餌とする魚類、というように、川の中では、さまざまな生き物が食べたり食べられたりしながら、自然のバランスを保っているのです。



4つの目をもつミズスマシの生態

流れの緩やかな環境や湖に生息するミズスマシ。実は目が4つあります。水面を境に上下に分かれており、水面より上と水中を同時に見ることができます。この4つの目は、鳥や魚などの捕食者から身を守る大切な役割を果たしています。また、動きをよく観察してみると、水面をかなりの速さでくるくると動き回っています。これは、速く動き回ることによって水面に波を起こし、波と物体のぶつかる感覚を感知することで、障害物をよけたり、餌の落下を知ることができるのです。



らい ねん すい せい せい ぶつ ちょう さ じっ し よ てい さん か
来年も水生生物調査を実施予定です。ぜひ、ご参加ください！

てんりゅうがわじょうりゅうかせんじむしょ すいせいせいぶつちょうさ まいとし じっし
 天竜川上流河川事務所では、水生生物調査を毎年実施しています。

さんかしゃ かた たの べんきょう さんか こえ
 参加者の方からは「楽しかった」「勉強になった」「また参加したい!」との声をたくさんいただき、
 こ数年は定員を超える参加の申し込みをいただいている状況です。

ちょうさ さんか かわ み きの はっけん けいけん
 調査に参加すると、川を見るだけでは気づかなかった新たな発見や経験ができるかもしれません。

すいせいせいぶつちょうさ とお みちか かわ ふか し らいねん おお かた
 水生生物調査を通して、身近な川のことをより深く知ってみませんか？ 来年も多くの方のご
 参加をお待ちしています！

ちょうさ ほうほう い みわ しりょう
 なお、調査の方法、生きものを見分けるための資料などを
 まとめたパンフレット「天竜川の水をしらべてみよう」を
 てんりゅうがわじょうりゅうかせんじむしょ こうかい
 天竜川上流河川事務所のホームページで公開しています。
 ぜひそちらもご覧ください。



てんりゅうがわじょうりゅうかせんじむしょ
天竜川上流河川事務所ホームページ：キッズコーナー

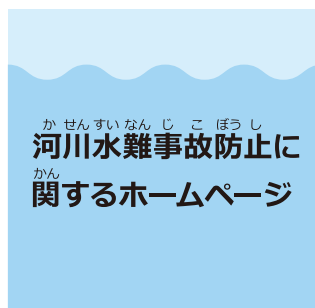
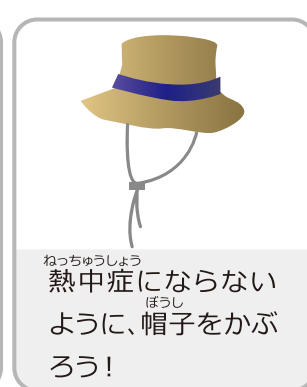
すいせいせいぶつちょうさ かん
 水生生物調査に関するページ

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/think/kids.html>

かわ あそ じゅう ぶん ちゅう い
川で遊ぶときは、十分注意しよう！

かわ い およ おお かた たの りょう
 川は、いろいろな生きものをみつけられるほか、釣りをしたり、泳いだり、多くの方が楽しく利用
 しています。しかし、場所によっては、深いところや流れの早いところなど、危険なところもた
 くさんあります。

かわ あそ いか ちゅうい あんぜん たの
 川で遊ぶときには、以下のことに注意して、安全に楽しみましょう！



こくどうつうしょう かせん すいなんじこ ぼうし しゅうかん
 ▶国土交通省 河川水難事故防止週間ホームページ

<https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/anzen/index1.html>



てんりゅうがわそうごうがくしゅうかん かわあそ
 ▶天竜川総合学習館「かわらんべ」 川遊びのルール

<https://www.kawaranbe.net/kawaasobi-rule/>



こくどうつうしょう かせんざいだん かわ あんぜん
 ▶国土交通省・河川財団×うんこドリル「うんこドリル 川の安全」

<https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/pdf/unnkodoriru.pdf>



国土交通省 中部地方整備局
天竜川上流河川事務所
 流域治水課

〒399-4114 駒ヶ根市上穂南7番10号
TEL: 0265-81-6415 / FAX: 0265-81-6420
<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/>

令和7年発行